



題字 藤原田 親

No. 482

2006/07/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都台東区浅草橋2-2-3
浅草橋5-5-5
電話 03(5833)3140(代)
FAX 03(5833)2141
http://www.jcfco.org.jp
E-mail: jcfco@jcfco.org.jp
社務 00119-1-2118

日中友好協会
岡山支部
〒709-0034
岡山市北区下伊福
西町1-58 民生会館1F
TEL: FAX 0863 258-8408

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福成町通3461-45
TEL: FAX 0861 451-7800

友好協会岡山支部ホームページ
http://zhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



もうひとつの七夕

盧溝橋事件69周年



原告とともに不再戦を訴える

日中岡山支部

7月7日はもうひとつの七夕。天満屋本店アリスの広場で、孤児訴訟署名と日中不再戦の街頭宣伝をしました。訴訟原告団から8人、訴訟を支える県民の会と弁護士から8人が参加しました。

商店街のアーケードに七夕飾りや平和の波の吹き流しがはためく下で、「もうひとつの七夕、盧溝橋事件69周年」のチラシと、残留孤児訴訟の現状を知らせる「署名推進ニュースNo.10」のチラシ計2種500枚をくばりました。

1時間で署名が118筆、カンパが5,855円の成果。

原告だった横山事務局長が亡くなられて、ちょうど1年、原告団の署名あつめは、すこく前進しました。来年1月30日に判決のある東京地裁あての署名が、岡山で2772筆に達し、去年の大阪地裁あての署名2671筆を上まわりました。ハンドマイクでの高杉団長と高見事務局長の訴えは「残留孤児は日本人」にはじまり、かなり上手になった日本語がきかれましたが、市民の耳には「どこの人ですか?」といった声もありました。



孤児訴訟署名と日中不再戦の街頭宣伝

言語障害を

つくり出した責任!

日本政府は、たくさんさんの孤児を言語障害者にし、十分な手当てもせず放つておいたのです。この責任は重大です。口頭弁論のたびに通訳をとおした原告の訴えが、どれだけ裁判官の心をゆり動かしているのか、心配でなりません。かつて原告のひとりがいきました。耳があっても聞こえない、目があっても読めない、口があつてもしゃべれない」と。

日本語教室で、原告達もがんばっています。成果があがっています。でも40年50年の日本語ばなれを取りもどすのは容易ではありません。多数の戦災孤児も空襲で両親を失いました。けれど、日本語を失ってはいません。

日本人として意志を通じあえないことはありませんでした。残留孤児の悲劇を戦争被害一般のように扱うことは人道に反します。

(竹内)

全国人権連第二回定期大会で

「孤児」訴訟支援のお礼!!

小林軍治



「孤児」訴訟支援のお礼を述べる小林軍治氏

全国地域人権運動総連合(全国人権連)は、六月二五日に岡山県総合福祉会館において、代議員約二〇〇人の参加で第二回定期大会を開催しました。

来賓として、中国「残留孤児」訴訟を支える岡山県民の会・事務局長の小生が参加し、大要次のようなあいさつをしました。

まず「これまで全国人権連のみならず、中国「残留孤児」訴訟支援のため、署名・募金をはじめ、機関紙での紹介、各種集会での訴え、この問題での講演会の開催など、さまざまな形でご協力をいただいたこと、お礼を述べました。

続いて、「今年五月二十四日に千九十二人が原告になっている東京地裁で裁判が結審し、来年の一月三〇日に判決が下されます。

現在、全国の原告団、弁護士、支援組織は、ここで勝利判決を得るために、東京地裁裁判官あてに「公正な判決を求める要請署名」に取り組んでいます。」と述べ、新しい署名への協力をお願いしました。

なお、大会議室には「中国残留孤

倉敷支部結成記念 中国の旅 紀行文 ③

わたしが見た 感じた 考えた

みなぎる建設への熱気

多田久生

中国を訪ねて、まず第一に感ずることは、都市を中心にして国全体にみぎる建設への熱気です。人口一千万人以上の都市がおおくあり、高層ビルや道路・鉄道建設が至る所で行なわれ、土日には街の何処からか人々が湧いて出てくるといった感じでした。

経済学者の中には現在の中国をバブルだという人も多くいます。しかし日本のかつてのバブルは土地・建物・債券が中心でした。中国では、土地は国の所有ですし、都市と農村の所得格差が大きいので、国内の潜在的市場も大きく、日本のような形ではバブル崩壊は

「中国残留孤児裁判の支援」を取り上げている。

二、岡山県連の人権問題研究会で「中国残留孤児問題をテーマに開催した。

三、諸要求の実現をはかる課題の一つとして「日本政府の怠慢に人間の尊厳をかけて立ち上がった中国残留孤児の国賠訴訟のたたかいを支援します。」と述べている。

無いのではと思いましたが。

私は、歴史遺跡よりバスの車窓から次々と展開していく街の様子や農村の風景に興味がありました。どのような商店街が軒を並べているか、どんな作物を栽培しているかといったことです。

西安の兵馬俑博物館へ行く途中に残っている窑洞(ヤオトン)は、黄土高原にいまでも多くある洞窟式住居で、多分いまでも五千万人以上の人々がこの中で生活していると思われまふ。延安の毛沢東の住居のモデルが盧溝橋の「中国人民抗日戦争記念館」に展示されており、冬暖かく夏涼しそうな家でした。

現在の中国が抱えている問題でよく指摘されるのが、三農問題(農村が抱えている三つの問題・環境問題・資源問題・官吏の汚職問題等)です。これらはいずれも難しい問題だと思えました。

かつての中国では、旱魃や水害、あるいは戦乱で何千万人という人々が何かと食物にありつけなくて餓死するということもありましたが、現在、十三億余の人々が何とか衣食足っているということは大変なことだと思えました。



姜波先生による中国事情 ⑥

大連国際ファッションフェスティバルとその経済効果

美術と芸術が一体となって

大連市は遼寧半島の最南端に位置する港都市で、海に囲まれ、北方の「真珠」と言われるほど綺麗な街である。20世紀初頭に建てられた西洋風の建物が中山広場の周りに立ち並び、西洋文化を濃厚に残している。

この都市では毎年9月中旬、大連国際ファッションフェスティバルが10日間に渡って開催され、1988年に開始されて以来今年で17回目となった。

毎年秋の涼しい風の吹くころ国内外の有名なファッションデザイナーがここに集い、ファッションショーを披露する。期間中は市内にある多くの会場では大規模なコンサート、バレエ公演などが行われ、世界各国の歌手、ダンサーが華やかに舞台を飾る。かつては日本の桂由美のブライダルコレクションショー、西城秀樹の熱唱、ロシアバレエ団の「白鳥の湖」などがフェスティバルでお目見えしたことがある。美術と芸術が一体となつて大連を一層魅力的な文化都市に装い、フェスティバルのムードが高まるのである。

市民に高い文化意識を

大連国際ファッションフェスティバルの経済効果を見てみると、その名の通り、去年ではアメリカ、フランス、イタリア、ドイツ、日本、ロシア、韓国、香港など凡そ40の国々や地域および国内各地から3500余りの企業が集まるビッグイベントとなつた。メイン会場は地下一階、地上3階で、建築面積が約94,000㎡となつて、星海温泉センターにあつ



写真は桂由美さんの作品です

た。会場では各企業のブースが並べられ、商人、バイヤー、個人客などで賑わい、一週間で取引高は93年では4.4億元、97年では11.1億元と年々増える傾向にある。

国際ファッションフェスティバルの開催は特に大連市の縫製業の振興をもたらした。88年大連では縫製工場が700社から今年に至つて2590社と3倍以上増加した。去年まで大連市の繊維・縫製の売り上げは135.4億元となり、38,000人の就職を創出したという。

元大連市長薄来熙が当初大連国際ファッションフェスティバルを開催する目的についてこう語った。国際ファッションフェスティバルを一つの窓口として世界の人々に大連のことを知ってもらい、同時に大型コンサートを開催することで市民に高い文化意識をもたせたいです。国際ファッションフェスティバルを通して盛んに国際交流を促進したいです。その上、経済改革を推進するために中国政府は道路・空路などインフラ整備に力を入れてきた。華やかな国

その経済効果

があり、多くの日本企業がこの都市に拠点を置くようになった。現在日本の企業は約2800社ある。4000人余りの日本人が大連に在住している。キヤノン、三洋電機を始めとして、アルプス、トステム(株)タカラバイオ、ケミカル(株)イトキン...など電気・電子、繊維・衣服、製菓などの企業は、長年大連で生産拡大を続けてきた。これだけ多くの企業が大連に投資したのは、この都市では豊富な人材の源があるからである。

大連交通大学、大連理工大学、大連外国語学院などが街に点在し、日本語の分かる人材やIT人材を年々養成している。

日本の少子高齢化を背景に、ここ数年日本の企業は大連で人材育成の事業を強化している。2004年度日本政府開発援助組織ODAは9.68億円の無償援助資金を提供し、大連で日中友好大連人材育成センターを建設している。2006年には第二期生を募集する予定にしている。

拠点を置く日本企業

大連市の立地条件が便利だけでなく、都市環境がよく、地理的にも気候的にも日本に近いなどの利点

「特権的な満鉄 憤る話を聞いて」の

真実は

その1

青木康嘉

敗戦の混乱の中、満鉄の社員や軍部の人たちは一般の人を置き去りにして列車にのって帰国できたか？

「満州開拓史」によれば、新京特別市は、満州国の首都であり、日ソ開戦当時は、満州国政府関係職員、満鉄社員、満拓公社、日本政府大使館関係職員、ほか軍人家族、自営業者など合わせて約十四万余いた。

自分らも、と駅に集まった市民は、なぜか憲兵に追い払われるようになった。こうして十一日正午までに十八列車が新京駅を離れた。

避難できたものは新京在住十四万のうち約三万八千人。内訳は、軍関係家族二万三千余人、大使館などの関係家族七百五十人、満鉄関係家族一万六千七百人。ほとんどないにひといし残余が一般市民である。

こうした風景は、いたるところであった。なかにしれない「赤い月」の牡丹江駅風景を見ても同じで、多くの満州引揚体験記には「特権を利用して列車に乗って帰国した」とある。半藤一利氏は「その卑劣さには反吐が出るようになってくる」とまで書いている。

中国残留日本人孤児国賠訴訟の原告の代表相談役として訴訟を支えている菅原幸助さんは、その新京駅にいた憲兵だった。満州楽土に消ゆに次のように書いています。

駅の改札口は厳しい入場制限が行われていた。詰め掛けた群衆は、憲兵や警察官によつてことごとく乗車を阻まれていた。幸助の次の任務は、列車に乗り込んだ者の臨検だった。避難列車は、八名の新米憲兵が警護をした。トランクにいっぱい詰め込んだ百円札をわしづかみにし、復旧作業をし、機関士に銃口を向けて、八月十四日平壤に到着したという。

しかし、新京(長春)在住者の十四万人から、列車で引き揚げた者は約三万八千人を差し引くと約十万人はどうなったのか。

満州、チャースの悲劇で、父が大陸科学院に勤務していた浜朝子さんは、次のように記述している。

八月八日夜半、ソ連機が照明弾と郊外に三個の爆弾を落とす。十二日未明、大陸科学院の院長をはじめ政府要人が新京を脱出し、翌早朝に関東軍・政府関係者も薄儀も逃げてしまった。軍隊が逃げてしまったあと、武器らしいものもないのに、すべ

ての男に召集がかかった。」

そう、特権的にいち早く引き揚げた政府職員、満鉄社員、軍人家族は確かに居たが、多くの一般職員は取り残され、その後男たちは召集された。

八月十九日にハルビン、新京など主要都市にソ連軍が飛来して以来、女や子どもはソ連兵や一部反日中国人の暴行や略奪や強姦におびえた。ハルビンでも、四十五歳までの「男狩り」があり、シベリアに送られた。

そして、奥地から続々と開拓団の日本人がハルビンにむかつて逃げてきて、花園国民学校などの日本人收容所に集まってきた。もちろんハルビン途中の日本人收容所で越冬せざるを得なかった悲劇も忘れてはいけない。

その中で、特権的な立場でなかった一般の満鉄社員はソ連侵攻後どうしたか、次号で少し触れたい。



長春 満鉄本社跡 96・8・3 撮影者・青木康嘉氏

次回の新聞送付作業は
7月20日(木)午後1時半
民主会館2階で行ないます。
前回お手伝いくださった方です。

小林山和
澤内和
竹内和
竹内和